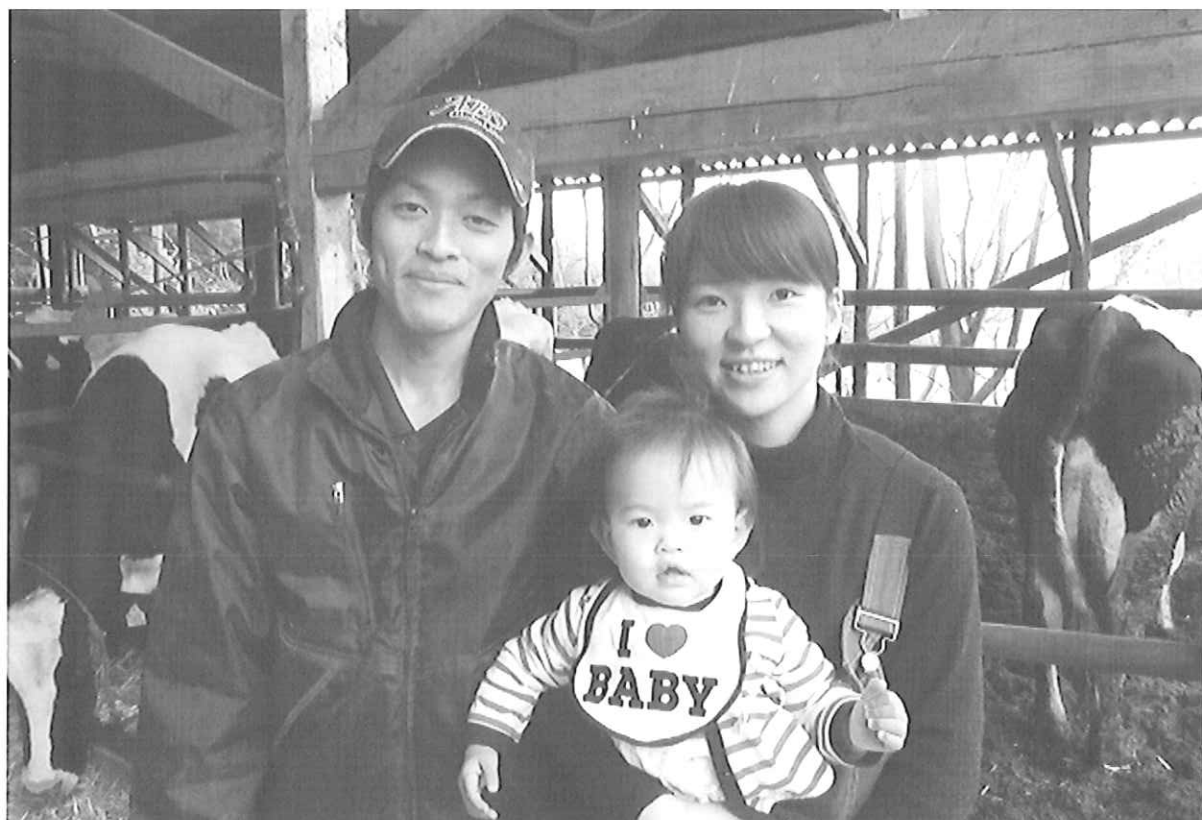


岡山畜産便り

2013 1

平成24年12月25日発行 第六十四巻第1号



勝央町 宮野 晃好さんご夫妻(酪農)

もくじ

<p>新年のご挨拶 一般社団法人 岡山県畜産協会 代表理事会長 樋口 義男 1</p> <p>年頭挨拶 岡山県農林水産部畜産課 課長 若田 茂 2</p> <p>「新初英」産子が大活躍!! ~第10回全国和牛能力共進会の成果~ 岡山県出品対策協議会事務局 3</p> <p>岡山県口蹄疫防疫演習を開催しました 岡山県農林水産部畜産課 衛生環境班 5</p> <p>〔家保のページ〕 牛の破傷風の発生と予防について 真庭家畜保健衛生所 7</p> <p>〔共済連だより〕 家畜診療日誌 西部基幹家畜診療所 岩原 幸治 9 真庭家畜診療所 植月 義友 10</p> <p>〔普及の現場から〕 放牧和牛肉の高付加価値化への取り組み 新見農業普及指導センター 11</p>	<p>〔技術のページ〕 おかやまの次代を担う種雄牛 岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室 13</p> <p>受賞 〔黄綬褒章〕 本松 允之さん 〔旭日双光章〕 藤井 晉さん 第52回岡山県農林漁業近代化表彰 (宍安富牧場 岡山県農林水産部畜産課 経営流通班 15</p> <p>〔畜産現場の声〕 私の酪農経営 宮野 晃好(勝央町) 18</p> <p>肉用子牛生産者補給金制度について今一度 (一社)岡山県畜産協会 価格安定部 19</p> <p>〔Q&Aコーナー〕 高病原性鳥インフルエンザ対策を教えてください。 (一社)岡山県畜産協会 21</p> <p>岡山県在職37年の勤務場所での思い出 高山 介作 23</p>
--	---

謹賀新年

おいしい食品と健康を支える。人と環境の持続的発展に貢献する。

フタバ飼料株式会社

「お客様第一主義」 私たちは、畜産農家のみなさんと共に考え、行動します。

「品質の安全供給」 私たちは、質の良い飼料とサービスの安定した提供を実現します。

「食の安全確保」 私たちは、安心してできる原料と製造工程により、飼料と食品の安全確保に努めます。

「社会貢献」 私たちは、飼料の製造・提供を通じて、畜産農業の発展に寄与すると同時に、豊かな食生活と社会・地球環境の向上に貢献します。

「発展する職場」 私たちは、職場の安全と働きやすい環境づくりにつとめ、個人とその成長を助け合います。

体細胞・乳房炎でお悩み方、子牛の虚弱でお悩みの方、経営力強化「飼育管理向上」をご希望の方、ご連絡ください。当社製醗酵技術応用製品群 醗酵TMR各種・生菌混合飼料エコサポート麹・ナッキン液・フタバラクティス

岡山市東区瀬戸町万富1057-1 TEL 086-953-0832 FAX086-953-1870

謹賀新年

株式会社 **アスコ**

<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所 所在地

- ・東北支店
仙台、古川、福島
- ・関東支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
- ・CA支店
大阪、京都、名古屋、東京、大宮
- ・中部支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜
- ・中国支店
広島、福山、山口、岡山、米子

生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

ASCO



一般社団法人 岡山県畜産協会
代表理事会長 樋口 義男

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本協会は、幅広い角度からの課題や要請に応えられる支援活動を行うため、昨年4月に一般社団法人として再スタートいたしました。計画に沿った円滑な運営のもとで新たな年を迎えることが出来ましたのも会員並びに関係諸機関のご理解とご協力の賜であり心からお礼申し上げます。

昨年は、国をあげて東日本の震災復興や原発関連への対応が求められる中で、TPP交渉参加の是非、近隣諸国との領土問題、防衛基地問題、税制改革など多くの事案が持ち上がり、我が国の歴史認識や将来を左右する重要な事項であるが故、その動向に心が安まらない一年でありました。

畜産においても、回復の兆しが見えない国内景気に円高も加わり、生産物価格の低迷や輸入量の増加、海外の気象変動による穀物の高騰など、依然として生産現場への明るい気配が無く、肉用子牛及び肥育、肉豚、鶏卵、配合飼料など、一連の価格補填制度の下で、何とか経営維持がなされた厳しい年でありました。一方では、畜産が水田など農地の保全活用を積極的に進め、地域農業を強く支えるなど、地域に元気が湧く頑張りもありました。転作圃場での飼料用稲やトウモロコシによる良質サイレージ生産で、海外飼料に依存しない経営を実践して生産乳量のアップにつないだ事例もありました。

また、本県和牛の産肉レベルの高さが評価された年でもありました。第10回和牛能力共進会において肉牛の部では国内大産地の宮崎県とトップを競い、本県和牛の産肉能力と飼育技術レベルの高さが示されました。また、老朽化した堆肥処理センターの機能改善を図るための公共事業の導入など、耕畜連携による地域循環型農業の前進につながる着実な動きも見られました。

いよいよ迎えた新しい年、県内の生産農家と関係機関のみんなが力を合わせて乗り越え、多事をかき分けて迎えた年です。まずは、安定した政権の下で中山間地域の資源や環境を無駄なく活かし、これまでの成果も加えて畜産経営の安定と発展の年にしたいものです。畜産協会では、生産農家の皆様の意欲ある経営実現を目指してあらゆる支援活動を続けてまいります。稲WCSなど飼料作物生産、耕作放棄地の活用、エコフィードの推進、耕種に限らない他産業との連携、公共事業での整備、あわせて従来からの経営診断・家畜防疫・価格安定・生乳検査など一連の業務になお励み、岡山県の農業・農村の発展に貢献する所存であります。関係の皆様の一層のご支援とご指導ご協力をお願い申し上げます。

新しい巳年が皆さんにとって、播いた種が実（巳）を結んで大きな成果が得られる良い年となりますよう、また、皆様のご健勝とご繁栄につながりますことをお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



岡山県農林水産部
畜産課長 若田 茂

年頭の挨拶

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。また、旧年中は県畜産行政の推進について御理解と御協力をいただき、心から御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災の影響や長期にわたる景気低迷が畜産物の消費減退、価格低迷に拍車をかけ、原料主産地の干ばつによる配合飼料価格の高騰など畜産を取り巻く情勢は依然として厳しい状況が続きました。その一方で、10月25日から29日まで開催された全国和牛能力共進会長崎県大会では、第7区総合評価群肉牛の部において、県の新鋭種雄牛「新初英」産子が全国第2位の成績を収めるなど、「おかもと和牛」のブランド力を全国にアピールすることができ、今後の肉用牛振興に希望の灯火を点したものと考えております。また、県営食肉市場へ新たに放射性物質測定器を導入し、9月から同市場において処理された全ての牛肉の検査（全頭検査）を新たに開始しましたが、その結果の公表を通じまして、県民皆様方に一層の安全安心感を更にお届けできるものと確信しております。

さて、本県では11月に就任された伊原本知事のもと、気持ちも新たに畜産振興にあたることとしております。具体的には「岡山県酪農及び肉用牛生産近代化計画」等に基づき、畜産業の安定的な発展と消費者ニーズに応えた畜産物の安定供給を実現するため、生産基盤の維持・強化、ブランド化と新販路の開拓、家畜の改良、水田等地域資源の有効活用などを推進するとともに、地産地消を軸とした、さらなる消費拡

大対策や安全・安心の確保対策など総合的な対策に積極的に取り組むこととしております。特に、水田を活用した耕畜連携による稲ホークロップサイレージの増産と稲わらの利用拡大、飼料米・麦わら、食品副産物等の未利用資源の利用など、飼料自給率の向上を一層推進するとともに、家畜伝染病に対する防疫体制の強化に努めてまいりたいと考えております。

しかしながら、こうした一連の施策は、行政、生産者、関係団体が連携して一体的に取り組んでこそ効果が発現するものであります。皆様方には、格別の御高配を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

厳しい状況のなか、新たな1年を迎えたわけですが、関係者一丸となって乗り切ることが重要であります。蛇は脱皮することで成長していきます。巳年である平成25年は、前例・慣習にとらわれないチャレンジ精神を発揮して、大きく脱皮していただきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸、飛躍の年となることを祈念して、年頭の御挨拶といたします。



「新初英」産子が大活躍！！

～第10回全国和牛能力共進会の成果～

岡山県出品対策協議会事務局

全国選りすぐりの和牛480頭が集合し、大いに盛り上げた第10回全国和牛能力共進会長崎大会が5日間の会期を終え、10月29日に閉幕しました。岡山県からは全国最多規模となる27頭を出品しましたが、「新初英」産子で出品した12頭をはじめ、各區で「おかやま和牛」が大活躍したのでその成績を紹介します。

○新初英産子の成績

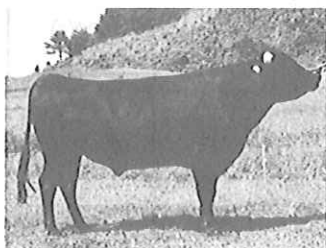
【種牛の部】

- 第1区（若雄）・・・優等賞5席
- 第3区（若雌2）・・・優等賞10席
- 第6区（高等登録群）・・・優等賞7席
- 第7区（総合評価群）・・・優等賞5席

【肉牛の部】

- 第7区（総合評価群）・・・堂々の第2位！
（出品3頭全てが5等級）
- 第9区（去勢肥育牛）・・・優等賞9席

全国第2位となった「新初英」の枝肉（第7区BMS10、枝肉重量465kg）



種牛・肉牛両面で好成績を収めた岡山県種雄牛「新初英」号

このように、肉牛、種牛ともに優秀な成績を収め、「新初英」の産肉性と種牛性の両面での能力の高さを全国に示すことが

できました。質量兼備の種雄牛として今後、肥育素牛、繁殖雌牛生産のどちらにおいても十分な能力を発揮してくれるものと期待しています。

この他、2大会連続の入賞となった第4区「たま系」、優等4席に入賞した第8区など、新初英産子以外で出品した区でも、おかやま和牛の能力、そして育成、肥育技術の高さが存分に発揮されて各區で上位入賞を果たしました。

また、各區の審査、そして新見高校が披露した碁盤乗りでは卓越した調教技術が全国のみなさんに驚きと感動を与えました。おかやま和牛の素晴らしさを全国にアピールできた5日間であったと思います。



第10回全国和牛能力共進会



上：種牛の部では高い調教技術により出品牛の能力を十二分に発揮しました！

下：大会2日目には新見高校生徒が碁盤乗りを披露し、岡山の調教技術を全国にPR。



出品者の皆様大変お疲れ様でした。

第10回全国和牛能力共進会の県代表牛成績

区分	名号	父牛号 父名号	出品者		成績			
			住所	氏名				
種牛の部	第1区 若雄	新高水 勝利花	新糸藤 新初英	津山市 新見市	森岡和雄 柴田 武	優等6席 優等5席		
	第2区 若雌の1	かつもりふじ	沢茂勝	津山市	井原 亨	1等5席		
	第3区 若雌の2	ひでかんげつ	新初英	津山市	井原邦子	優等10席		
	第4区 系統雌牛群	ありたま8の4 第2おのうえたま ふじたま6の9 たま15	花茂勝2 第2平茂勝 21世紀 花茂勝2	新見市 新見市 新見市 新見市	有藤 剛 (有)哲多和牛牧場 新木省二 江田好恵	優等5席		
	第5区 繁殖雌牛群	はなまさえ さわかんげつ かんげつ50 はづき	花茂勝2 沢茂勝 花茂勝2 北乃藤	津山市 津山市 津山市 津山市	石本省二 井原申博 本多 茂 井原邦子	2等2席		
	第6区 高等登録群	第7かんげつ8 第7かんげつ14 はつかんげつ	美津福 花茂勝2 新初英	津山市	大塚 毅	優等7席		
	第7区	はるか はつひめいわ のぼる3の5 たま15の5	新初英 新初英 新初英 新初英	新見市 新見市 新見市 新見市	竹本 弘 宗長堅吾 西村佳明 江田好恵	優等5席 (種牛の部) (7位)		
	肉牛の部	総合評価群	秋初英 大畠136 初玉英	新初英 新初英 新初英	奈義町 奈義町 奈義町	花房芳視 花房芳視 鷹取 聖	(肉牛の部) (2位)	
			第8区 若雄後代検定 牛群	盛栄 利姫盛 石花姫	盛利姫 盛利姫 盛利姫	高梁市 奈義町 奈義町	妹尾正六 鷹取 聖 國富美喜男	優等4席
			第9区 去勢肥育牛	哲多全共7 新初茂	新初英 新初英	新見市 奈義町	(有)哲多和牛牧場 花房芳視	1等 優等9席

岡山県口蹄疫防疫演習を開催しました

岡山県農林水産部畜産課 衛生環境班

平成24年11月20日（火）吉備中央町にある「きびプラザ3階ホール」において「岡山県口蹄疫防疫演習」を開催しました。

この演習は、万一の口蹄疫発生時に関係機関の適切な連携のもと迅速かつ的確に防疫措置を行い、本県畜産の被害や県内外の経済的混乱・損失を最小限に防ぐことを目的に開催したものであり、昨年改正された家畜伝染病予防法（以下「家伝法」）、口蹄疫に関する特定家畜伝染病防疫指針、本県口蹄疫防疫対策マニュアル、県口蹄疫対策本部設置要綱、県民局口蹄疫現地対策本部設置要綱に基づき行いました。

当日は、晴天のなか、200名を超える関係者（中国四国農政局、自衛隊、市町村、農業共済連・獣医師会・酪農組合などの畜産団体、飼料会社、薬品会社などの畜産関係業者、県関係者及び近県家畜衛生関係者等）が演習に参加しました。

まず、挨拶のなかで、主催の県側として口蹄疫防疫の重要性を述べ、その対策には初動防疫が最も重要であり、そのためには県内外の関係者の連携協力が不可欠であることを強調しました。



続いて演習に入りましたが、司会並びに説明は県の口蹄疫検討部会（県畜産課、各家畜保健衛生所、各県民局畜産班で構成）の各部会員が努めました。

以下、演習の概略です。

1 口蹄疫とは？

原因の口蹄疫ウイルスが偶蹄類家畜に感染する海外悪性伝染病であり、牛では39℃以上の発熱、泡状のよだれや口・蹄・乳頭の水疱・潰瘍が発生、特に豚では跛行やほ乳豚が高率に死亡する等の説明を行いました。

2 家伝法改正のポイント

病気の発生予防として水際検疫や農場の飼養衛生管理基準強化、早期の発見・通報体制の確立、関係機関の役割分担明確化による迅速的確な初動対応、加えて農家への財政支援強化が大きな改正点となりました。

さらに発生時の防疫措置では家畜の殺処分は原則24時間以内、死体の処理についても原則72時間以内に行うことが、口蹄疫の特定家畜伝染病防疫指針に明記されたことを強調しました。



3 関係機関の役割分担

建設業協会への委託作業、市町村、農業協同組合、農政局、自衛隊、警察、農業共済連、飼料・畜産資材・動物薬品販売会社、県の各部所等当日参加された各組織の方に対してそれぞれの役割について説明を行いました。

4 畜種及び飼養形態別発生農場における作業内容

牛については、つなぎ飼い・放し飼いなど、豚では飼育ステージごとの捕獲方法や殺処分方法について、図解を使って分かりやすく説明

しました。

5 埋却地や周辺農場における防疫作業

実際の埋却地作業、疫学調査や周辺農場に感染が広がっていないか調べるための発生状況確認検査、清浄性確認検査について解説を行いました。

6 除染テント及び防疫資材の展示

農林水産省が備蓄してあるテントを今回借り受け、組み立てから使用方法までの説明を行うとともに、実際に使う電殺器等の防疫資材の展示を行いました。



7 宮崎県における口蹄疫発生時の対応と課題

午後からは、「がんばろう宮崎!!」と銘打ち宮崎県宮崎家畜保健衛生所の後藤俊郎先生による講演が行われました。

平成22年に宮崎県では292戸、約29万頭の牛・豚・羊等が処分され、経済被害は関連産業含め、判明しているだけで約2,350億円となりました。

このように、感染爆発が起こったときにどれだけ防疫活動が困難になるかということが蕩々と語られ、発生当時のご苦労が忍ばれるとともに、初動防疫対応の重要性を関係者ともども再認識しました。次に、続発した場合の対応として先遣隊を編成し、農場の概要、地形、人員、必要資材の検討を行うことが重要であり、これによって防疫作業が円滑になった事が示されました。

埋却作業の留意点では雨天作業対策、家畜体液噴出・臭気対策が示されるとともに、ワクチン接種にかかる経緯、発生農場の排せつ物処理、経営再開に向けた取り組みを分かりやすく説明していただきました。

さらに宮崎県では今回の発生を受け次のよ



うに県体制を改正しました。

- ・口蹄疫防疫マニュアルを見直し動員サポート、資材等を担当する防疫支援班を編成。
- ・病性診断における検体送付について否定症例でも動物衛生研究所に献体を送付し関係機関、机上での防疫措置準備を行うこと。
- ・毎月20日を「県内一斉消毒の日」に制定し関係者の防疫意識の向上を図った。
- ・また、消毒ポイントの作業については市町村の業務と位置づけた。

最後に

今回の演習を通して参加者の皆さんが、口蹄疫についての理解を深め、有事の際の防疫作業の内容と関係機関における役割分担を再認識されることを期待するところです。そして、このような家畜伝染病が発生しないこと、畜産農家の皆さんや関係者ともに、日々の防疫体制が、「転ばぬ先の杖」にならんことを祈るばかりです。台湾・中国など東アジア諸国では現在も発生が続いています。飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

家畜を飼養している皆さんは毎年2月1日現在の定期報告をお願いします。

牛・豚・鶏・山羊・めん羊・いのしし・あひる（あいがも）などの家畜を飼養している皆さんは家畜伝染病予防法で毎年2月1日現在の飼養頭羽数や飼養衛生管理基準の遵守状況などの飼養状況を県に報告することが義務付けられています。所定の報告様式で決められた期限までに各家畜保健衛生所に届出てください。

詳しくはお近くの家畜保健衛生所にお尋ねください。

牛の破傷風の発生と予防について

岡山県真庭家畜保健衛生所

1. はじめに

破傷風は破傷風菌による傷口からの感染で起こる人獣共通感染症であり、届出伝染病に指定されています。特に馬、ヒトで感受性が高く、牛は比較的低いとされていますが、国内発生の主流は牛です。国内では毎年約80頭以上の牛が死亡しており、過去5年間の岡山県での発生頭数は、平均3頭でした。しかし、今年度は6頭（平成24年11月末現在）が確認され、増加傾向が認められます。そのため、その詳細及び症状と対策について紹介します。

2. 平成24年度岡山県で確認された牛の破傷風発生の概要

表1 発生概要<平成24年11月末現在>

発生管内	頭数	発生日	品種	原因(推定)
岡山家保	1	10月	黒毛和種	去勢リング
津山家保	1	9月	黒毛和種	去勢リング
井笠家保	0	-	-	-
高梁家保	3	8月	黒毛和種	去勢リング
真庭家保	1	11月	ジャージー	頸部の傷口

表1より、発生原因はいずれも傷口からの感染で特に去勢リング装着によるものが多いことがわかります。また、夏～秋にかけて発生していますが、季節性はないと言われています。

3. 原因・感染経路

破傷風は炭疽と並ぶ土壌病で、菌は土壌や動物の糞便から分離されます。感染経路は菌が傷口から侵入し、増殖して神経毒素を産生します。その毒素が運動中枢神経を侵し、約4日～3週間の潜伏期間を経た後、急性全身性の神経症状を呈し、呼吸筋麻痺を起こし、窒息死に至ります。

4. 主な症状

○流涎（図1）

ヨダレが垂れ、飲水・飲食ができない。

○全身性の強直性痙攣

筋肉が硬くなり、痙攣が生じる。

○木馬様姿勢（図2）

手脚が伸張し、曲がらない。

○後弓反張（図1）

頭部が後方に反り返る。

○瞬膜露出

眼の中から白い膜の様なものが見える。

○光や音の刺激に過大反応

大きな音を立てると過剰に反応する。

といった症状を示し、牛の場合は馬の場合より進行が緩やかな傾向を示すとされています。また、多くの事例は去勢や分娩と関連する単発例ですが、断尾や除角と関わる集団事例の報告もあります。



図1 流涎・後弓反張



図2 木馬様姿勢

5. 治療

発症初期にワクチンを皮下又は静脈注射が有効です。また、強直性痙攣がひどい場合はマグネシウム剤の皮下注射や鎮静剤の投与が効果的とされています。しかし、発

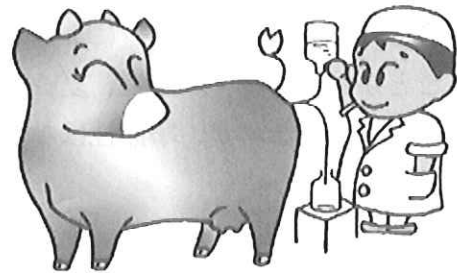
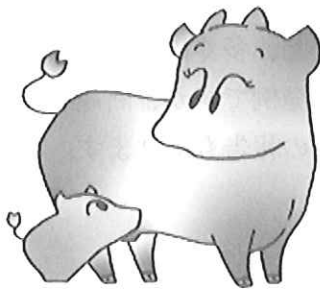
見時は病態が既に悪化していることが多く、その時点で治療を開始しても回復見込みは少ないため、家畜では治療を行わないのが現状です。

6. 予防対策

まずは傷口を作らないことが重要です。去勢リング装着後は十分注意し、傷口がひどければ、よく消毒をして下さい。また、牛舎及び管理器具（去勢、除角、断尾、分娩器具）の定期的消毒をすることで菌が定着しにくい環境を作ることも大事になります。

また、ワクチンがありますので過去に本病が発生した農場では担当の獣医さんと相談した上で接種をお勧め致します。

（真庭家畜保健衛生所）



〔共済連だより〕

家畜診療日誌

西部基幹家畜診療所 岩原 幸治

今年度で定年を迎え、牛の世界から離れると思うと、和牛を飼ってみたい気分になっています。新たに家畜を飼うとなると、土地・牛舎・資本・環境への配慮等、非常に困難です。現在、畜産を経営されている方は、大変な資産家であると再認識しています。誇りと自信を持って農畜産業を継続して頂きたいと思います。

今、執筆時点で衆議院が解散され、離合集散を繰り返し、政党がいくつも出来ており、党議拘束がかかるためか人物の個性も見えず、投票しにくい状況です。

日本の首相が毎年変わり、国の威厳が落ちたのか、領土が脅かされ経済も減速したままの状態です。

アメリカの傘の下、戦後目覚ましい発展を遂げ、世界で2番目のGDPとなりました。自由と平等は心地良い響きですが、自由とは各々の身勝手さがぶつかり、平等な条件で競争すると弱肉強食となってしまいます。アメリカ方式の歪みが次から次へと出るようになりました。市場原理・金銭至上主義が日本を席卷し、世界のグローバル化、TPPしかりアメリカ化が更に進もうとしています。敗者は切り捨てられ、貧富の差が拡大しています。農産物も外国の安い物が流通し、日本の農業はこれからどうなるのでしょうか。はっきりした将来ビジョンが国民に示されていないと思います。

農耕民族日本が、戦後遅きではありますが真に自立して、アメリカとの同盟関係を結ばなければいけないと思います。

国防において専守防衛が基本で、とにか

くアメリカ頼みです。食料においても自給率40%で、他国に米櫃を預けています。現状では、植民地状態にあると言わざるを得ません。

独立した国としては、防衛力・自前の食料を保持してこそ、自らの意志で行動できると思います。食料安全保障の面から複数の輸入先と備蓄も重要であり、そして国内の農業を再構築するため国民に問いかけてほしいと思います。

農村では神社・仏閣・伝統行事が、都会に出ている子供も帰り連綿と続いています。今ならまだ農地・コミュニティーも守られており、日本の良さが残っています。

新規就農が難しい中、色んな補助金を集約して土地の流動性、資金の補助、所得の支援を国が積極的に行う必要があると思います。瑞穂の国として栄えてきたので、適地適作・連作障害のない米づくりを中心に、休耕田にも制限なく増産したい。米の利用にあたっては、畜産は輸入穀物が多いので、自給率向上のため米穀に転換する。又、海外への援助物資として使う。

若者が、農を業いとしていける夢ももてる政策を打ち出す政権が発行時誕生していることを願っています。

競争の原理から、我共済の本分とする相互扶助の精神へたちかえり弱者を支え、東北でみた世界から尊敬されたマナーの良さ、黄金色した田園風景が日本人の心を取り戻し、まさに農業維新が起きることを願っています。

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

真庭家畜診療所 植月 義友

秋も深まり県北の真庭家畜診療所管内も冬將軍の到来を待つばかりとなりました。私も事務職から診療現場に復帰し2回目の冬季を迎えることとなりました。事務職とは異なり往診時の車の運転は、季節ごとの楽しみがあり往診経路から目に映る景色は四季折々さまざまな風景が目に映り楽しみも深まります。管内でも南部と北部ではさまざまな風景が異なります。春には百花爛漫の時期が異なり秋には、頭をたれる稲穂の時期、また冬は積雪の量が異なり自然の雄大さ、また植物などが自然界に対応する力には驚く限りです。そして自然環境の変化に伴い牛舎の風景も変化することが必要ではないでしょうか。人は、衣服を重ね着し自分自身で調節でき、また冷暖房施設の利用で調整できますが、牛舎は自然には変化しないため家畜に対しては、人為的作業が必要です。

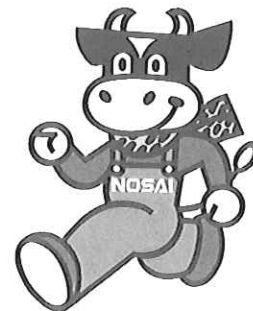
ところで、農家の方々もすでに牛舎等の冬支度はもう済みましたか。外気温の変化が激しい時期は、虚弱な家畜は自然環境に対応しかねており、飼料効率が悪く余病を発症しやすく特に幼弱な子牛では、呼吸器・消化器病などが多発傾向にあります。特に多頭化飼育の場合、集団発生することがありますので要注意ではないでしょうか。

そこで、個々のチェックシートを作成してはどうでしょうか。年間用・季節用・個体用に分けそれぞれの項目に随時チェックをします。年間用は、定期毎の項目を、たとえば削蹄・寄生虫駆除・牛舎消毒・管理機械の整備・水質検査など。季節用は、四

季に必要な項目たとえば、暑熱対策・害虫駆除・防寒対策・圃場管理・牛舎周囲整備・ワクチン接種など。個体用は、日々の繁殖管理・栄養管理・肢蹄管理・疾病管理・乳量管理・個体識別情報などさまざまな項目を決め重複するものは、どちらかに決めてチェックします。それぞれのチェック項目は、農家により牛舎の立地条件、家畜の品種・飼養目的等により異なると思いますので一律でなくてもかまわないかと思います。経験豊富な農家の方々は卒がないとは思いますが、時には、煩雑さにより忘れていくことがあるかも知れません。このような時、チェックシートにより再確認することにより気がつく場合があります、それぞれの対策を講じることができるのではないのでしょうか。また、チェックシートを基にして疑問点・改善策など関係団体等に相談することもできると思います。

今一度、基本に返り家畜の状態を把握することにより疾病予防対策により畜産経営が安定することを望みます。

『予防に勝る治療なし』



〔普及の現場から〕

放牧和牛肉の高付加価値化への取り組み

新見農業普及指導センター

はじめに

新見普及センターでは「儲かる農業の実践」を最重要テーマに掲げ、地域農業を支える意欲ある担い手や先進的経営を目指す農業者の育成のため、新規就農者の早期経営確立支援や省力・低コスト化の推進、高付加価値化の推進などに取り組んでいます。

今回は、新規就農者として新見市哲多町にやってきた岡田朋子さんの「放牧和牛肉の高付加価値化」の取り組みについて紹介します。

1. 新見に来たきっかけ

岡田朋子さんは広島大学で農学について学び、その後技官として大学で牛の飼養全般に携わってきました。その中でずっと「自分で農業をやりたい」という志を抱きながら、様々な方法を模索していました。ご主人の実家（愛知）とご自身の実家（広島）の間で新規参入者が農業をできる土地を探して、片っ端から手紙で問い合わせたところ、岡山県新見市に家と土地を見つけることができました。

そこで岡山県畜産協会が開催している「和牛入門講座」に参加し、新規参入でも初期投資が少なくできる方法として「放牧主体の和牛繁殖経営」に取り組むこととし、平成20年に繁殖和牛2頭でスタートしました。

2. 農業スタート

家の周りに電牧を張り、放牧したところみるみる草は無くなり、景色が一変しました。

近所の人の見学コースにもなりました。

和牛は1年中家の前や近隣の耕作放棄地に放牧します。しかし繁殖経営の場合、収入源は子牛を販売することでしか得られません。

岡田さんの経営規模では、まだ「農業」で生活できるほどの収入は得られず、ご主人の給料と岡田さんが臨時で教員をした給料で生活費を稼ぎ、3人の子育てをしています。



3. 「里山牛」の販売開始

平成23年に、2年ほど耕作放棄地に放牧していた牛の肉を知人や周りの人などに販売したところ、販売額が約70万円になりました。

このことは衝撃でした。和牛の経産牛は通常のルートに出荷してもせいぜい15～20万円程度です。脂身が黄色く、赤身の部分は鉄分が豊富なため暗赤色で今までの霜降り和牛とはイメージが違いすぎるため、精肉店の店頭には並ぶこともなく、加工用等として流通します。

それが3倍近い値段で売れたのです。もちろん加工賃や販売経費を差し引けば、利益はそれなりですが、和牛子牛販売の利益に比べたら、かなり魅力のあるものでした。

そこで岡田さんは、放牧に慣れた繁殖和牛を仕入れ、耕作放棄地への放牧で仕上げを行い、自分の作った直販ルートで肉を販売するというプランを検討しました。このやり方が確立すれば、「和牛を飼える」と思う人が増え、もっと耕作放棄地の解消が進むし、輸入ではなく国産の赤身の肉が食べたいというニーズにも応えられる、という思いが岡田さんの中に強くありました。

4. 紆余曲折

岡田さん、普及センターや畜産第二班で検討を重ね、繁殖和牛の増頭と老廃牛の販売という二本立てで、10頭の経産牛の導入資

金を借りようと金融公庫に相談を持ちかけたところ、あえなく玉砕しました。

まず老廃牛が70万で売れるわけがない。一回はうまくいったかもしれないが継続的には無理。返済不能だろう。という回答でした。

また、満を持して2頭目の解体に踏み切ってみたものの、「和牛=柔らかい」というイメージで購入していき料理してみたら「固くてかみ切れない」という人もいたり、「高い」と言われたり、すぐに完売とは行きませんでした。新たな顧客を見つけても、「大量に取引できないなら無理」とか、「もっと厳密に飼養管理してくれ」などという人もいたりして、販売に取り組んだ者にしかわからない壁にもぶつかりました。

5. 地道な取り組み

岡田さんは肉をただ売るのではなく、放牧で仕上げた牛の特性を活かした「調理法」も併せて伝えたいと思っています。部位や加工(ミンチ、ブロック、スライス)によっても適した料理が異なります。

主婦ですから、どのような料理に使えばよいか考えたり、実際に作ることは得意です。

調理方法を実演し、こつさえわかれば美味しく調理できることを実感してもらいます。

岡田さんは消費者に直接説明し、販売するということが大事にしていますので、今のところ顧客は近所の人を中心となっていますが、本当に価値を認めて購入してくれる人を地道に増やしていこうと様々な方策を検討中です。

6. 地域への広がり

ある日岡田さんがテレビで取り上げられ、近所でも関心を持つ人が増えてきました。中には、放牧のための土地を提供したいとか、自分が牛をやめるときには岡田さんに牛を売りたいという人も出てきました。

また、岡田さんのところで働いてみたいという希望を持っているかつての教え子もいます。

このような人たちのためにも、このシステムをなんとしても確立したいと岡田さんは奮闘しているところです。

幸いにも岡田さんが地道に築いたつながりを通じて、牛の販売頭数は2頭、3頭と増加しています。



7. 今後の課題

まず一つが放牧に適した牛の導入です。そして、放牧に使う牧柵を買うためにもお金がかかります。岡田さんはなるべく初期投資額を少なくすることで新規参入の人がやりやすいシステムのモデルになろうと考えています。

普及センターでは今後、放牧飼養技術支援や、放牧牛のおいしさについての科学的な面からのアプローチ、六次産業化、販売システムの構築などについて、国の研究機関や大学、商工会などと連携して支援していきたいと思っています。

最後に、岡田さんからのお願いですが、うちにも放牧に慣れた牛がいるよという方、うちの土地を使ってもいいよという方、一度放牧牛を味わってみたいという方も是非下記までご連絡ください。よろしくお祈りします。



里山と牛研究会にいみ 岡田朋子

〒718-0312 新見市哲多町田淵843

電話 /FAX 0867-88-8058

メール cwkdr783@yahoo.co.jp

おかやまの次代を担う種雄牛

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室

1. はじめに

平成24年10月に第10回となる和牛全共が長崎で開催され、岡山県からは全出品区に種牛、肉牛合わせて27頭を出品しました。

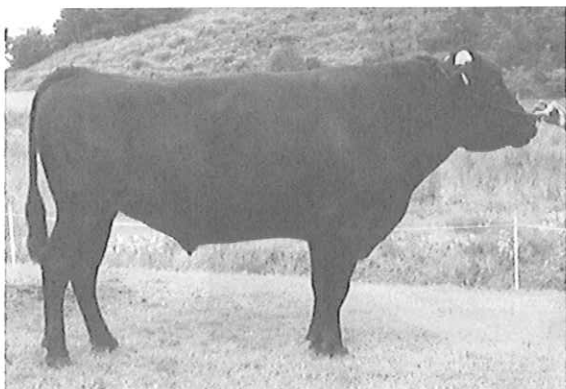
岡山県からは、当研究所の基幹種雄牛「新初英」の産子を種牛及び肉牛に計11頭出品し、7区肉牛の部で全国第2位となったのを筆頭に大きな成果を上げました。

これからの岡山和牛の改良を担う種雄牛として、全共で活躍した「新初英」と今年度新たに基幹種雄牛に選抜されました「北盛栄」について紹介します。

2. 長崎全共大活躍！「新初英」

「新初英」は質量兼備の種雄牛として活躍中の「沢茂勝」の後継牛として作出されました。

【 新 初 英 】



生年月日：平成17年7月7日
 生産者：坂本 英典 氏（新庄村）
 登録番号：黒原 4930 審査得点：82.3 点

表1に「新初英」の血統構成を示します。「新初英」は体積・均称に優れており、長崎全共では種牛の部で、1区、3区、6区、7区に「新初英」の産子を出品し、発育、

均称品位において高い評価を受け、全て優等賞に入る好成績でした。種牛性の面でも大いに貢献できる種雄牛です。

表1 新初英の血統

沢 茂 勝	平 茂 勝	第20平茂 宝 勝
	さわだ1の1の5	糸 藤 奥 松
しんはつひめ	利 花	利幸土井 糸 藤
	第2はつひめ	平 田 糸 藤

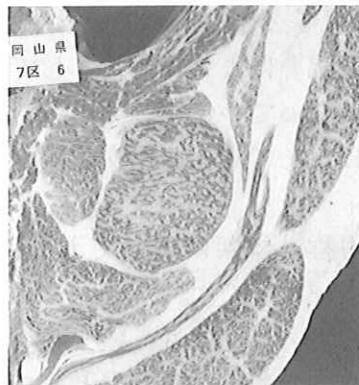
表2にこれまでに出荷された新初英産子の枝肉成績と現在の育種価を示します。

枝肉成績はロース芯面積と脂肪交雑で特に優れ、枝肉重量とバラの厚さも平均以上の育種価であり、主要形質すべてにおいて高く安定した産肉能力となっています。

表2 新初英の枝肉成績

新 初 英	枝肉成績		育 種 価	
	去勢	雌		
枝肉重量(kg)	463.4	442.3	37.556	B2
ロース芯面積 (cm ²)	57.9	58.6	13.024	3%
バラの厚さ(cm)	7.7	7.3	0.762	A3
BMS No.	6.9	6.8	1.630	5%
上物率(%)	85	67		

第10回長崎全共 第7区



父：新初英
 去勢
 24ヶ月齢
 枝重 465kg
 ロース芯 61cm²
 BMS No.10

交配についてみると、兵庫系雌牛との交配で枝肉重量がやや少ない傾向が見られますが気高系雌牛との交配では高く安定しており、特に脂肪交雑は母牛の系統に偏らない好成绩でした。

3. 歴代最高の脂肪交雑！「北盛栄」

「北盛栄」は「第5北盛」の後継牛として肉質の大幅な向上を目的に作出されました。

【 北盛栄 】



生年月日：平成19年3月3日
生産者：半田一夫氏（真庭市）
登録番号：黒14533 審査得点：80.9点

表3 北盛栄の血統

第5北盛	平茂勝	第20平茂	宝勝
	ひらもり	平田	糸藤
としさかえ6の1	美津福	谷福土井	田森土井
	第6としさかえ6	第2富藤	糸藤

表3に「北盛栄」の血統を示します。

血統構成は藤良系を主体とした岡山系統が1/2、気高系は1/4を占めています。また母の父「美津福」により資質系として但馬系も1/4となっています。気高系の血液が濃い雌牛に対しても、適正交配が可能と言えます

「北盛栄」は均称、体深に優れており、前中軀に幅のある種雄牛です。

後代検定肥育に用いた産子も、いずれも幅、深みのあるものが多く、肥育牛としての外貌はよく仕上がり、斉一性も高く安定

していました。

枝肉成績についてみると、脂肪交雑は本県の現場後代検定のなかで最も高い成績を示しました。

全体の上物率も高く、父である第5北盛の欠点であったロース芯面積についても大幅に改善し、バラ厚も良好で安定した枝肉成績でした。

表4 北盛栄の枝肉成績

北盛栄	枝肉成績		育種価	
	去勢	雌		
枝肉重量(kg)	481.3	432.5	27.083	C
ロース芯面積(cm ²)	57.7	54.3	5.362	B2
バラの厚さ(cm)	8.1	7.6	1.062	5%
BMS No.	7.2	6.6	1.763	3%
上物率(%)	100	78		

検定成績では、但馬系、気高系のいずれかが母系に入った牛が多く、枝肉重量について母系統による若干のばらつきは見られますが、特に脂肪交雑は高く安定した成績でした。

H23年度現場検定合同調査会



父：北盛栄
雌
27ヶ月齢
枝重476.7kg
ロース芯63cm²
BMS No.9

交配については、気高系や藤良系など増体系の雌牛に対してバランスの良い産子が期待できると思われます。

いずれも血統、能力ともに岡山の素晴らしい特徴を有した種雄牛です。皆様、是非ご活用ください。

〔黄綬褒章〕

本松 允之さん

(岡山県食肉荷受株式会社 代表取締役社長) 岡山市北区建部町

岡山県畜産課 経営流通班



岡山市の本松允之さんが11月13日、農林水産省で「黄綬褒章」を受章されました。

本松さんは、昭和24年からの農協勤務をはじめりとして、長きにわたり畜産業界に身をおかれ、生産者への営農支援による活力ある産地づくりや消費者への安全安心な畜産物の提供に取り組むなど、地域畜産の発展に尽力された功績が評価され、今回の受章につながりました。

1 経歴

本松さんは、昭和24年の倭文村農業協同組合入組以来、久米郡畜産販売農業協同組合連合会、岡山県総合畜産農業協同組合連合会、岡山県経済農業協同組合連合会を経て全国農業協同組合連合会岡山県本部で畜産物の生産に携わり、県畜産協会会長や(株)岡山県食肉センター代表取締役社長など畜産業界の要職を歴任され、現在、岡山県食肉荷受株式会社代表取締

役社長として、県下における食肉流通の中核である重要な職責を担われています。

2 主な取り組み

(1)食肉流通業に関する功績

岡山県食肉荷受(株)は、県営食肉地方卸売市場における卸売業者として、地産(主に県産)家畜の荷受け、と畜及び枝肉の卸売りを主な業務として、食肉(牛肉及び豚肉)流通の窓口となっていますが、食肉市場関係団体の調整を図り、近代的・衛生的な施設の総合整備を実現し、市場機能の強化に貢献されました。さらには、顧客満足を達成するための組織や製品の品質向上に継続的に取り組む仕組みを導入し、地方卸売市場における卸売業者として全国で初めてISO9001規格の認証を取得するなど、本県食肉流通業の発展に果たした功績が大きく評価されました。

(2)畜産振興に関する功績

社会情勢や畜産情勢等を踏まえ、中心となって既存の3団体再編に取り組み、新たに「県畜産協会」を発足させるなど、新時代に対応した幅広い視点から包括的に畜産農家を支援する組織体制の整備に尽力されました。再編整備後は、生乳の広域流通に伴いブロック化された指定生乳生産者団体から生乳の検査業務を受け入れ、中国5県統一の検査業務を実現させるなど、中国地方の酪農業に対する貢献も大きく評価されました。

〔旭日双光章〕

藤井 晋さん

(元)岡山県獣医師会 会長理事) 津山市

岡山県畜産課 経営流通班



津山市の藤井 晋さんが11月9日、農林水産省で「旭日双光章」を受章されました。

藤井さんは、長年にわたり獣医師として、特に酪農を中心とした畜産経営での診療行為に取り組み、畜産経営の維持・発展に尽力するとともに、獣医師が組織する(社)岡山県獣医師会の指導者として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、動物に対する保健衛生の向上と獣医学術の研鑽・普及を図ることを通じた、安全・安心な社会の実現と動物関連産業界の発展に寄与されたことが評価され、今回の受章につながりました。

1 経歴

藤井さんは、ホクラク農業協同組合勤務を経て平成4年に「藤井動物病院」を開業され、(社)岡山県獣医師会の理事、副会長を歴任、平成13年から19年には会長

理事の重責を担われました。この間、県畜産協会の理事も務められるなど、畜産振興にも貢献されました。

2 主な取り組み

(1)岡山県獣医師会に関する功績

昭和54年から56年、昭和62年から平成20年の延べ23年の長きにわたり、(社)岡山県獣医師会の理事に就任。内、平成5年から13年の8年間を副会長理事、平成13年から19年の6年間を会長理事として組織の要職を務め、会員獣医師をよく統率し、技術研鑽に資する会員相互による研修会の開催や中国地区獣医師学会の地元開催等、研究・研鑽活動を積極的に展開して、獣医・公衆衛生・畜産の技術向上に努めたほか、組織の充実強化と会員600余名の社会的地位向上に尽力されました。

(2)畜産振興に関する功績

平成13年から19年までの間、県獣医師会会長の立場から県畜産協会(旧:畜産会)の理事に就任。その間、畜産経営を総合的に指導する支援体制の整備を図るため、既存3団体を再編して新たに発足した「県畜産協会」の円滑な運営に貢献されました。特に安全で生産性の高い畜産経営に資するため、畜産協会の指定獣医師確保に奔走するなど、岡山県における強固な自衛防疫体制の確立に尽力されました。

第52回岡山県農林漁業近代化表彰受賞

(有)安富牧場

岡山県畜産課 経営流通班

さる11月11日(日)、岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)で開催された「岡山あぐり総合フェア2012」において「農林漁業近代化表彰」が実施され、畜産部門では、岡山市の(有)安富牧場が受賞されました。

【評価の視点】

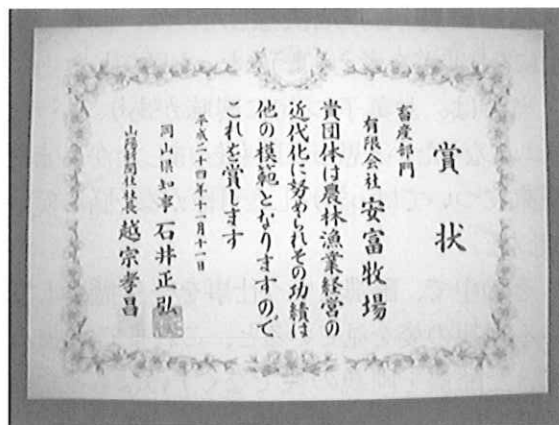
当牧場は、酪農経営の新たな発展方向を目指して、平成10年、県内の酪農家として初めて、自ら生産した生乳を使用したアイスクリームの製造・販売に取り組み、農業者が生産、加工、販売を行う6次産業化のパイオニアとして、他のモデルとなっています。加工技術の習得、販売施設の整備、各種イベントへの出店、消費者との交流会、季節商品の開発など、従来の酪農経営にはなかった形態を確立させています。

また、アイスクリーム製造に適した高品質な生乳生産を行うため、牛舎の増改築や飼料のTMR方式の導入、牛に快適な環境を与える努力を続け、乳牛の耐用年数の延長や繁殖成績の向上などを実現しています。

さらには、社内研修を充実することで、従業員や経営者のスキルアップを目指していますが、特に、10数名の従業員を雇うなど地域の雇用に対する貢献も評価されました。

平成13年には、(社)中央酪農会議から、牧場を教育の場として開放する「酪農教育ファーム」に認定され、小中高生の酪農体験の受け入れを行っているほか、牧場イベントの開催や近隣農家の野菜販売など、早くから消費者との交流の場に牧場を開放することで、地域農業の活性化にも寄与しています。

こうした近代的企業的経営の取組とそれを持続するための努力、地域への貢献が評価され、受賞へとつながりました。



※牧場内の施設案内



※遠足で牧場を訪れた小学生



酪農教育ファーム
の認定プレート

〔畜産現場の声〕

私の酪農経営

勝田郡勝央町 宮野 晃好

私が酪農をしようと決意したのは、高校3年生になり進路を考えるようになった頃でした。

当時は、お菓子づくりに興味があり、パティシエになりたいと思った時もありましたが、まだ将来についてはっきりとした目標がなく悩んでいました。

その中で、酪農という仕事を一生懸命している両親の姿を見ていると、これまで頑張ってきた酪農を両親の代でなくすのはもったいないと思い、家を継ごうと決意しました。

そして蒜山にある中国四国酪農大学校に入学しました。そこで自分と同じような夢をもった仲間たちと出会い、非農家出身の人が圧倒的に多いことに驚きました。

在学中には、酪農をしていく上で必要な知識や技術、人工授精などの資格を取得しました。また、校外研修を行うことで、それまで家の手伝いなどあまりしていなかった私は、両親がしている仕事の大変さを改めて知りました。

大学卒業後は、岡山市にある松田牧場に2年間お世話になり、たくさんの事を勉強させてもらいました。松田牧場では、乳牛の他に和牛繁殖や肥育、乳製品加工のジェラート店といった複合経営をされていて、これまで乳牛しか考えていなかった私には、視野が広がる

とてもいい勉強になりました。

そして、同じ大学で出会った妻と結婚し、今年の4月から地元の勝央町に戻り、家の酪農を継ぎました。

家族は妻と娘を合わせ4世代8人で、毎日がとても賑やかです。毎晩、妻が娘をおぶって餌押しなどの仕事を手伝ってくれ、その背中で牛を見ながら大喜びする娘を見て、毎日元気をもらい、もっと頑張ろうという意欲が湧きます。

現在は、繋ぎ牛舎スタイルでホルスタイン経産牛60頭、和牛繁殖雌牛1頭を飼育しています。

今までは両親だけだったので、育成の余裕がなく、ほとんどを北海道導入をしていましたが、これからは自家育成を進めていきたいと思っています。また、視察研修や農業後継者の勉強会に参加し、新しい知識を積極的に取り入れたいです。

将来的な経営方針は、はっきりと纏まっていませんが、細やかな飼養管理を目指し、特に、乾乳牛に力を入れ、産後の立ち上がりスムーズにして事故を減らし、もっと生産性を向上させていきたいと思っています。

Takanashi

持続性乳酸菌LGG菌がおなかの調子を整えます。

タカナシヨーグルト

おなかへGG!

LGG菌が腸へ届く、悪い菌を減らす。



タカナシ ヨーグルト
おなかへGG! [100g]

タカナシ ドリンクヨーグルト
おなかへGG! [100ml]

タカナシ乳業 横浜市旭区本宿町5 www.takanashi-milk.co.jp お客様相談室 フリーダイヤル0120-369-059 土日・祭日を除く
9:00-12:00 13:00-17:00

肉用子牛生産者補給金制度について今一度

(一社) 岡山県畜産協会価格安定部

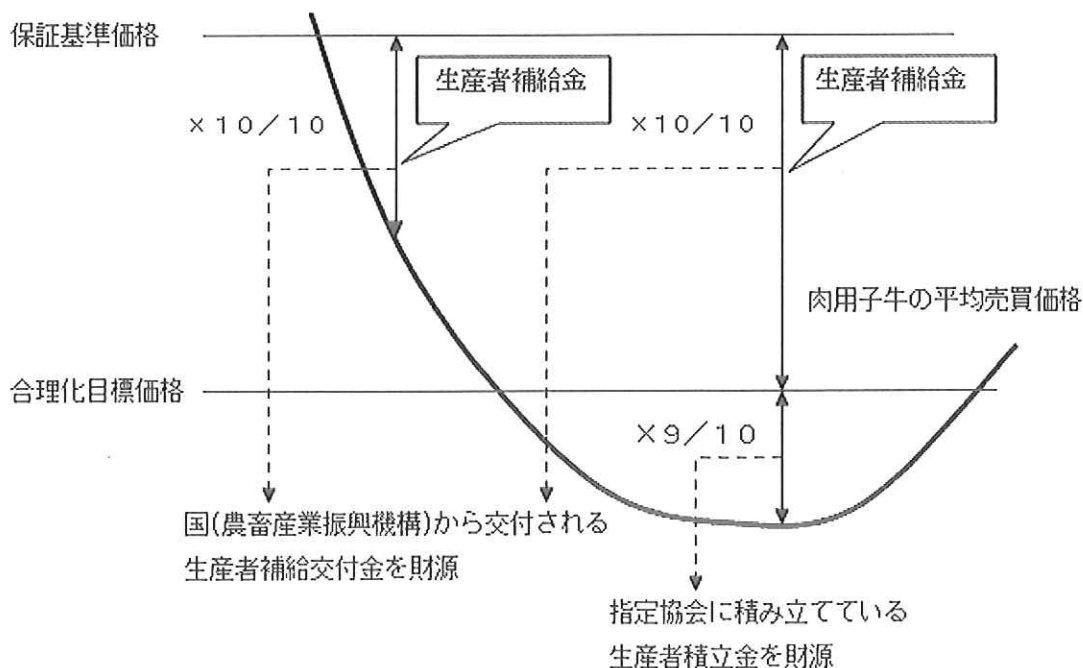
平成24年度岡山県における肉用子牛飼育農家の皆さんの肉用子牛補給金制度への加入は約10,000頭となっています。この制度は子牛価格が低落した折、再生産が確保されるよう補給金が支払われる制度ですが、畜種別にみると黒毛和種は久しく補給金が交付されておらず、補給金制度を不要かな？とお考えの方もあろうかと思えます。そこで、今一度、この制度の歴史と経緯からみた重要性についてお知らせしたいと思えます。なお、諸外国においても自国の農業・農畜産物を守るため、我が国に無い制度ですが輸出補助金の交付(主にEUなど)や不足払いなどで強力的に価格対策を実施しています。

1 補給金制度の仕組み

下の図は肉用子牛生産者補給金制度の仕組み図です。

農家の皆さんとは予め畜産協会と補給金交付契約を結んでいただき、肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合、その程度に応じて補給金が交付される仕組みです。なお、合理化目標価格までは国が全額負担し、さらにこれを下回った場合は、国、県、農家の皆様からの積立金を取り崩し9/10を補給金としてお支払いすることになります。

制度の仕組み



負担割合	国の助成	1 / 2 (黒毛 1,100、その他肉専 12,200、乳用種 6,350、交雑 2,500 円)
	県の助成	1 / 4 (黒毛 550、その他肉専 6,100、乳用種 3,175、交雑 1,250 円)
	生産者負担	1 / 4 (黒毛 550、その他肉専 6,100、乳用種 3,175、交雑 1,250 円)

保証基準価格及び合理化目標価格（平成24年度）

（単位：円）

	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	310,000	285,000	204,000	116,000	181,000
合理化目標価格	268,000	247,000	142,000	83,000	138,000

2 肉用子牛生産者補給金制度創設の経緯

まだ、皆様の記憶に新しい出来事かと思いますが、国際的な貿易自由化の流れの中で昭和63年に牛肉の輸入自由化が決定され、平成3年4月には昭和39年以降続けられてきた輸入枠を撤廃し完全自由化されました。そして自由化以降は関税化されることとなり、当初70%の関税率も年々に引き下げられ、現在では38.5%となっています。

また、牛肉の輸入は平成3年3月までは畜産振興事業団（現農畜産業振興機構）が一元的に行い、事業団が食肉卸売市場に売り渡す輸入牛肉の数量をコントロールすることにより価格安定を図ってきました。しかし平成3年4月からは事業団による一元輸入が廃止され、関税を払えば誰でも自由に牛肉を輸入することが可能になりました。このことにより事業団が行っていた輸入牛肉の流通量をコントロールすることによる価格安定対策が困難となりました。また、牛肉輸入自由化以前からも食生活の欧米化により増加傾向にあった牛肉消費はこの自由化と関税率の削減により価格の安い輸入牛肉が一斉に出回り、さらに増加しましたが、一方で国産牛肉価格は低落することとなり、肉用子牛の価格及び生産に大きな影響が生じることとなりました。

そこで、これらに対処し国産牛肉の資源である肉用子牛生産の確保と安定化を図るため、昭和63年12月に制定された肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき牛肉等輸入関税を特定財源とした肉用子牛生産者補給金制度が平成2年4月1日から施行されました。併せて肥育経営の安定化を図るため肉用牛肥育経営安定対策いわゆるマルキンも講ぜられました。この対策を実施するために毎年度、輸入牛肉関税が特定財源として使われています。輸入牛肉等関税収入は平成24年度予算で810億円の見込ですが肉用子牛などの対策には約80%の642億円が使われる予定です。

3 今後の取組

肉用子牛生産者補給金制度は前述のように農家の皆様が安心して日々、肉用子牛の生産にあたっていただけますよう紆余曲折を経て関係者の理解と尽力により措置されたものです。最近の国、県の厳しい財政事情を反映して各農業関係予算が軒並み削減されていますが、マルキンと並んでこの制度は強力で維持されており、今後も安定した肉用牛生産を支えるものと期待されています。安定した肉用牛の生産は消費者への安全・安心な良質蛋白資源＝国産牛肉を安定して提供することにもつながります。今後、こうした点からも制度存続のアピールを消費者、一般国民に対して行い理解を得ることも重要と思われます。

また、子牛登録等申請事務についても、生産検査をはじめとして全農、農業協同組合の全面的な協力、支援をいただくことで円滑な事務処理が行われています。私ども畜産協会としましても適切な事務処理はもとより、新規契約奨励金の交付や契約手数料の負担など皆様方の負担軽減に努めております。今後も農家の皆様方のご理解と継続した参加を今一度お願いします。

Q&Aコーナー

Q 渡り鳥が飛来し、高病原性鳥インフルエンザの発生が心配されます。発生を防止するためのポイントを教えてください。

A 農場へ入られる畜産関係者の皆様は

- 農場（衛生管理区域）の出入りの際には
 - ・ 車輛の消毒（自ら持参した機器による消毒等）
 - ・ 靴の消毒と手指の洗浄又は消毒
（ブーツカバーや使い捨て手袋の着用も可）
 - ・ 家畜に直接接触する物品の洗浄又は消毒
（洗浄や消毒ができない物品は汚れを取り除くことで可）
 - ・ 記録用紙への記入（入場日、氏名等）
- 畜舎、家きん舎へ出入りする際には、靴の消毒と手指の洗浄又は消毒
- 注射針や人工授精用器具は、1頭ごとに交換又は消毒

A 畜産農家の皆様は

- 衛生管理区域の出入りの際には、車輛、人、物品は必ず消毒
 - 衛生管理区域では、
 - ・ 専用の衣服、靴を使用（ブーツカバーでも可）
 - ・ 家きん舎ごと専用の靴（ブーツカバーでも可）を使用し、靴の消毒、手指の洗浄、消毒を実施
 - 防鳥ネットの点検・補修、ネズミ等野生動物の駆除及び侵入防止、鶏舎周辺・農場敷地周縁・農場内道路への消石灰散布
 - 衛生的な飲用水の使用
- ※なお、詳細については、お配りしております飼養衛生管理基準パンフレットなどを参照して下さい。

お断り

岡山畜産便りの当初の編集計画では、1月号（新春号）で特集〔地産地消〕を掲載する予定にしておりましたが、編集の都合により、2月号（冬季号）に掲載しますので、よろしくお願い致します。

お知らせ

乳牛の伝染性下痢症に伴う泌乳量低下は 牛コロナウイルスワクチンで防ぎましょう！

牛コロナウイルスによる下痢症は、気温の急変によるストレスが誘因となって、秋から春の寒冷期に多発します。

突然の水様性下痢に始まり、すぐに全群に広がります。普通7～10日で回復しますが、泌乳中の牛では2～4週間にわたり泌乳量が低下したり、低下したまま回復しないこともしばしば見られます。

本病は全国的に多発しています。死亡することが少ないので、軽視されがちですが、経済的損失が大きいことから、ワクチン接種により予防することが大切です。

- 接種料金：下記にお問い合わせ下さい。
- 接種回数：初めての牛は1ヶ月間隔で2回（接種経験有りの牛は1回）
- 申込方法：NOSAI 家畜診療所・おか酪家畜診療所・開業獣医師
（一社）岡山県畜産協会支部（各家畜保健衛生所内）

ホットニュース

第2回異業種交流会「こだわりの味」展示会 ～畜産農家が作っている6次化産品～

岡山県畜産協会は、平成24年11月1日（木）総社市のサンロード吉備路で第2回異業種交流会を開催しました。今回は、第1回目の異業種交流会に参加いただいた玉島おかみさん会・おかもやま女性農業委員の会・美作三湯女将さん会を対象に、関係機関を含め計42名のご出席をいただき、県下で地産地消を目指して活躍している女性たちの意識向上を図ることを目的とし、畜産農家が6次化産品として販売している事例を紹介しました。

生産者10名に商品に対するこだわりや熱い思いをお話いただいた後、6次化産品計34点の展示試食を行いました。

その後の意見交換会においては、「地域活性化には異業種との連携・協力が必要と感じている。お互いを巻き込みながら、頑張っていきましょう」「せっかく良い商品を作っているのだから、力一杯PRをすべき。消費者目線で売り込み方法を考えてみては？」などの意見が出されました。



岡山県在職37年の勤務場所での思い出

高山介作（岡山県職OB）

退職して6年数ヶ月が過ぎますが、年々1年が非常に短く感じています。

さて、畜産便りの執筆依頼があり、古いことを思い出しながら書きました。あの頃は、このようなこともあったと思い出していただければ幸甚です。

和気農林事務所

酪農試験場で特定疾病を除去した清浄豚が作出され、農家への普及を図るため清浄豚拠点施設の建設と高倉山に芝型草地造成による山地酪農経営計画の作成にあたり、保安林解除や土量計算等を林務課・耕地課の方々に援助して頂いたこと、ニューカッスル病の発生があり、和気家畜保健衛生所の方々とともに夜遅くまで防疫に従事したこと。

真庭家畜保健衛生所

蒜山地区に大規模草地造成がなされており、ピロプラズマ病を媒介するダニ駆除のため、ヘリコプターによる薬剤空中散布が実施され、ダニ調査及び薬剤散布の飛散状況を確認するためヘリコプターに搭乗して散布地区の確認写真を撮ったこと。

また、九州から北上した原因不明の牛異常産（流産・死産・異体形）が多発、中国四国酪農大学校においても発生し、前年のブルセラ病検査済みの血清が保存してあり、発症牛のペアー血清が出来、病性鑑定所・家畜衛生試験場においてアカバネ病抗体の上昇が見られ、アカバネ病による異常産と確定されたこと。

酪農試験場

乳牛（ホルスタイン種）後代検定を全国23施設のステーションで実施することとなり、指定交配で生まれた初妊娘牛30頭（9月から10月分娩予定）の購買に県内の酪農家をまわり価格交渉したこと、検定1期牛・検定2期牛は10月から4月までは長野県・岡山県の産乳能力が高く、北海道を抜いていたのに5月から8月には北海道の産乳が低下せず追い越されたこと。後代検

定1期牛は、鏡野産の雄牛が優秀な成績となり種雄牛となったこと。

岡山家畜保健衛生所

家畜衛生普及強化学業に対して、国の行政評価監査があり、モニター農家については、調査票の回収状況、記載内容、報償費等の細部の説明を求められた。牛繁殖障害は台帳の枚数確認、記載事項、勤務日誌と台帳の突き合わせと多くのコピーの提出が求められ、以後3ヶ月程度電話・来訪による確認と現地の聞き取りがなされたこと。

家畜病性鑑定所

赴任すぐの5月に食肉市場から神経症状の牛が搬入され隔離しているので、早急に病性鑑定をお願いすると連絡が入り、現地に赴くと8ヶ月程度のホルスタイン種であり、大きな音に敏感で皮膚に触れると神経症状が診られるものの、外観や触診による異常はなく、畜主に病歴を聞くと2ヶ月前に臍帯ヘルニアの手術を実施したとのことであり、破傷風が疑わしいことを畜主に伝えると、牛を処分して頂きたいとのことだったので、病性鑑定殺とし臍帯部を切開、膿瘍があり、採材して染色顕微鏡検査をすると芽胞及びバチ状菌が見られたため破傷風と決定、膿瘍より菌分離を実施したところロールチューブ培養においてのみ菌分離が出来たこと。

また、乳用雄哺育施設で下痢・死亡があり、サルモネラ菌が分離できたものの既知サルモネラ血清で型別判定が出来ず、家畜衛生試験場に型別を依頼すると国内では珍しいサルモネラダブリンと判明したこと。

豚の一貫経営で発酵菌床において下痢、死亡が多発し、夕方遅く病性鑑定の持ち込みがあり、解剖しても各臓器に病変はなく主要臓器を採材し、解剖台に乗せたままにし、翌朝片付けに行くと、解剖台一面に線虫が這い出しており、寄生虫による下痢・死亡と診断できたこと。

豚の急死があり豚丹毒を疑い細菌培養するも、菌の発育がなく死亡が増加して病性鑑定の依頼があり、豚コレラを疑い現地に赴いたところ死亡豚と元気に走っている豚が混在していて、豚コレラ用病勢鑑定材料を採材、今後の打ち合わせのため現地の家保により、細菌培養平板を見ると平板全体に菌の発育が見られており、豚丹毒と診断できたこととワクチン接種（適期）をしていれば感染しない事例に遭遇したこと。

炭疽病診断に使用できる炭疽ファージを家畜衛生試験場から譲与して頂き、ファージの増殖と発生時に備え凍結乾燥保存したこと、及び鶏卵・ブロイラーにおける抗生物質残留検査を動物医療品検査所で習い、食品の安全安心につながる検査の開始等多くの事があったこと。

東備家畜衛生センター

本所（岡山家保）管内で炭疽の発生があり、抗生物質を服用しながら発生農家での防疫対策、焼却作業と北海道桜野牧場1ヶ月研修及びセンターの廃止にともない備品、書類等の仕分け作業を行い、事務所内等をきれいにして本所に統合したこと。

岡山家畜保健衛生所

千葉県農業共済組合家畜診療所で1ヶ月の繁殖障害研修に参加したこと。

畜産公社

県内の肥育農家に乳雄・F1肥育素牛及びホルスタイン種初妊牛の斡旋と販売で、肥育素牛では、発育不良、疥癬、蹄間腐爛のためよく返品され、哲多肥育場に引き取ったこと。肥育については、粗飼料にシュガーケントップを使用し配合飼料の食い込みが良くなり、県内肥育農家に負けない肥育成績となり、乳雄肥育農家の視察研修があったこと。

北海道桜野牧場

貯蔵乾草がなくなり1ヶ月程度早く乾草調整を行い乳雄子牛に給与したところ、増体が良くなり早期出荷につながったが、県内受入先より増体しすぎているので、去勢して出荷することになったこと。

牧草地は造成後15年を経過しており、牧草の収量が低下しており草地更新や石の除去と長年の懸案であった牧草地中心部に個人の所有

地があり、交渉により買い取りが出来たこと。

放牧場で和牛子牛8ヶ月令が熊に取られて皮のみ残っていたこと、温泉掘削、簡易子牛牛舎の建設、八雲祭りで岡山特産品の販売、山女魚・イワナ釣りをしたこと等多くのことが思い出されます。

岡山県総合畜産センター

家畜改良事業団主催の中国地区B&Wショウに出品し上位入賞と超高能力牛の導入にあたり牛舎改造と導入に関与したこと。

岡山地方振興局

加茂川ストックファームの草地更新をしたこと。

津山地方振興局

水稲転作の推進・不法農地転用の解消・農協合併の調印式に関与したこと。

真庭地方振興局

水稲転作の推進に伴う地産地消・6次産業化の立ち上げと局調整費により加工品用機器・収穫機・倉庫等の助成が行えたこと。

中国四国酪農大学校

全国乳牛共進会が岡山であり、ジャージー種牛において上位入賞したことと真庭局調整費により第2牧場の周辺に牧柵設置を行い牧歌的景観になったこと。牧草地に外来種のワルナスビがあり、繁茂駆除できなかったこと。

真庭家畜保健衛生所

BSE・鶏インフルエンザの発生があり、局全体で管内発生時の防疫体制を理解して頂いたこと。家保機器整備で焼却炉の会計検査があったこと。

津山家畜保健衛生所

管内に鶏インフルエンザ発生農場の関連養鶏場があり、発生時の防疫体制・協力関係を局全体で検討して頂いたこと。家保の診断液・試薬について会計検査があり、ロスの問題と疾病診断に複数の試薬の使用について疑問を持たれたこと。

家畜病性鑑定所

BSE施設・診断機器及び情報ネット機器について、会計検査があり、顕微鏡からテレビ画面に組織標本を映し出すと、大変興味を示され顕微鏡の操作をされたこと。

勤務先々においては、大変多くの方々と出会い、ご支援していただき感謝しています。今後も、人とのふれあいを大切に行きたいと思っています。

謹賀新年



岡山県産牛肉銘柄推進協議会

事務局 岡山市南区藤田556-126

全国農業協同組合連合会岡山県本部畜産部食肉販売課内

T E L (086) 296-5033 F A X (086) 296-5089

謹賀新年

安全・安心な肉用牛・肉豚・鶏卵の生産農場

岡山JA畜産グループ

岡山市北区磨屋町9番18号

岡山JA畜産株式会社

代表取締役 荒嶋 弥寿夫

新見市哲多町田淵1626番地1

有限会社 哲多和牛牧場

代表取締役 荒嶋 弥寿夫

謹賀新年

OHAYO

生乳のおいしさ、ぎゅっと濃縮

オハヨー 特濃4.4ミルク



オハヨー乳業の「特濃4.4ミルク」は、食品の国際的な品評会である“モンドセレクション”において、07-09年の3年連続で金賞を受賞。さらに、品質の高さを称える「インターナショナル・ハイクオリティ・トロフィー」も受賞しました。



www.ohayo-milk.co.jp

オハヨー乳業株式会社

謹賀新年

100th
ANNIVERSARY

おかげさまで
ヤンマー100周年

家畜が好んで食べる、
高品質サイレーズづくりに!
YWH1500



ダイレクトカット



ウインドローづくり



ウインドローの拾い上げ

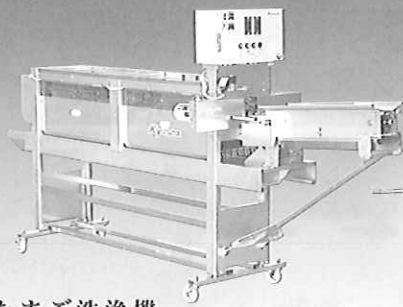
ヤンマー農機販売株式会社

岡山推進部 岡山県倉敷市亀山622

TEL086-428-5153

謹賀新年

本年もお客様のご要望に全力でお応えします。



たまご洗浄機
USW-002



ファームパッカー
FP-300 (最大処理能力：30,000 卵 /h)

Kyowa CREATE THE PERFORMANCE
共和機械株式会社 TEL 0868-26-6600

<http://www.kyowa-machinery.co.jp>
〒708-1115 岡山県津山市河面375

謹賀新年

- JAグループの一員として、「安全で安心な飼料」の製造販売を通じて畜産経営の発展と豊かな食文化の創造に貢献します。
- 商品の品質を大切に、JAグループの信頼と「お客様の満足の向上」を目指します。

当社は「心」を大切に、安全で安心な畜産物を提供するために生産者と消費者の「架け橋」となります。



JA西日本くみあい飼料(株)岡山営業所

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18

TEL 086(234)6896 FAX 086(212)3786

謹 賀 新 年

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 青江 一三

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4

TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



謹 賀 新 年

畜産機械・器具 全般

西日本興農株式会社

〒708-0841 岡山県津山市川崎86-1

TEL : 0868-26-1180 ・ 080-6338-6797 FAX : 0868-26-6836

E-mail : nisinihon.ko-no@car.ocn.ne.jp

謹 賀 新 年

岡山県養鶏協会

会長代行 山 上 恭 宏

役 員 一 同

謹 賀 新 年

社団法人 岡山県獣医師会

会長 三宅 忠篤
役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103

TEL (086)243-1879 FAX (086)241-8543 <http://www.oka-vet.or.jp/>

謹 賀 新 年

岡山県農業信用基金協会

農家のための優良保証機関 会長理事 小野 一郎

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9番18の401号(岡山県農業会館)

TEL(086)222-3218 FAX(086)226-3443

謹 賀 新 年

(社)岡山県配合飼料価格安定基金協会

理事長 高田 勉
役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103

TEL(086)241-4733 FAX(086)241-4722

謹 賀 新 年

岡山県家畜人工授精師協会

会長 延原 昭
役員一同

謹 賀 新 年
お か や ま 酪 農 業 協 同 組 合

代表理事組合長 東山 基

〃 専 務 岡田穂積

〒708-0841 津山市川崎94-1

TEL(0868)26-1101 FAX(0868)26-6763

謹 賀 新 年



蒜 山 酪 農 業 協 同 組 合

代表理事組合長 真田 善弘

〒717-0501 岡山県真庭市蒜山中福田958

TEL(0867)66-3645 FAX(0867)66-3647

E-mail:jersey@hiruraku.com <http://www.hiruraku.com>

謹 賀 新 年

本物の味わい……新鮮な岡山の畜産物。

地方競馬益金は畜産振興を支援しています。

岡山県馬事畜産振興協議会

謹 賀 新 年

岡 山 県 養 豚 振 興 協 会

会長 黒藪 忠章

事務局 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館

(一社)岡山県畜産協会内 (086)234-5981

福山競馬開催案内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

(1月)

1月	開催日	重賞・特別競走予定	1月	開催日	重賞・特別競走予定
1	火		17	木	
2	水	○	18	金	
3	木	○	19	土	○
4	金		20	日	○
5	土		21	月	
6	日		22	火	
7	月		23	水	
8	火		24	木	
9	水		25	金	
10	木		26	土	○
11	金		27	日	○
12	土	○	28	月	
13	日	○	29	火	
14	月		30	水	
15	火		31	木	
16	水		13日レディースデー(女性入場無料)		

(2月)

2月	開催日	重賞・特別競走予定	2月	開催日	重賞・特別競走予定
1	金		16	土	○
2	土	○	17	日	○
3	日	○	18	月	
4	月		19	火	
5	火		20	水	
6	水		21	木	
7	木		22	金	
8	金		23	土	○
9	土	○	24	日	○
10	日	○	25	月	
11	月		26	火	
12	火		27	水	
13	水		28	木	
14	木		3日レディースデー(女性入場無料)		
15	金				

あとがき

明けましておめでとうございます。

巳年の本年が皆様にとりまして良い年で、巳(笑)のり多い年となりますようお祈りします。

今は国際的にも岐路に立たされており、今年は色々な面で変化がある年になるのではと思っています。政治の情勢が変わり、経済・外交・エネルギーなどへの取り組みが変化し、新たな動きが出て来るのでは…?この動きは、畜産業界へも波及しそうで、今後の動向に十分注目して行きたいものです。

(M・Y)

岡山畜産便り 1月号(新春号)

第64巻第1号(通巻642号)

平成24年12月25日発行

定価250円(消費税・送料含)

発行人 樋口義男 編集人 山下政道

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 岡山県農協印刷株式会社

謹賀新年

動物用医薬品
総合商社

MPアグロ株式会社

取扱品目

動物用医薬品、医薬品、飼料添加物、混合飼料、
動物用機器・機材、土壤検査器具・機材 他畜産関連商品

事業所一覧

本社	〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13	TEL 011-376-3860 FAX 011-376-3755
岡山オフィス	〒700-0822 岡山県岡山市北区表町3丁目5番1号	TEL 086-224-1811 FAX 086-224-1819
リサーチセンター	〒703-8256 岡山県岡山市中区浜1丁目10番5号	TEL 086-270-9510 FAX 086-270-8371
御津物流センター	〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1	TEL 0867-24-4816 FAX 0867-24-4882

【中国営業部】

岡山支店 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1
尾道支店 広島支店 山口支店 鳥取支店 島根支店
TEL 0867-24-4880 FAX 0867-24-4889

【四国営業部】高松支店 徳島支店 松山支店 宇和島支店

【近畿営業部】京都支店 大阪支店 和田山支店 明石支店

【北海道営業部】札幌支店 函館支店 旭川支店 帯広支店 北見支店 釧路支店 東京支店
【東北営業部】青森支店 八戸支店 秋田支店 盛岡支店 一関支店 山形支店 仙台支店 郡山支店

【北九州営業部】福岡第一支店 福岡第二支店 熊本支店

【南九州営業部】宮崎支店 都城支店 鹿児島支店 鹿屋支店

【食品営業部】福岡食品支店 鳥栖食品支店 唐津食品支店

岡山畜産だより

平成二十五年一月号(新春号)
(第六十四巻第一号通巻六四二号)

平成24年12月25日発行

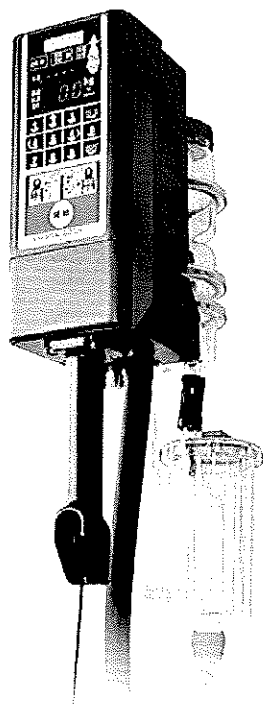
岡山市北区磨屋町九一十八 岡山県農業会館
発行所 岡山県畜産協会

定価 一部 二五〇円(送料共)
年間 一五〇〇円(送料共)



ORION www.orionkikai.co.jp

「進化」を確かめる。
「真価」を体感する。



乳量計付自動離脱装置

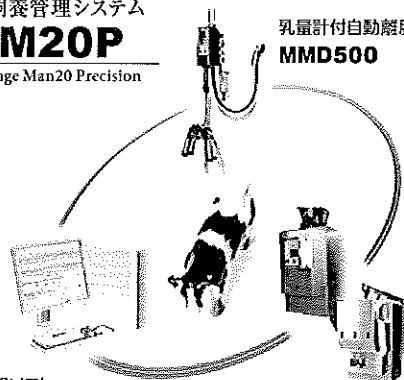
MMD500

精密飼養管理システム

CM20P

Challenge Man20 Precision

乳量計付自動離脱装置
MMD500



飼養管理PCソフト
ビジュアルマネジメント
プログラム(VMAP)

粗飼料配合飼料自動給飼機
MAX Feeder
配合飼料自動給飼機
MAX Feeder HID(ハイジ)

中国オリオン株式会社

岡山営業所 〒702-8022 岡山市南区福成2丁目14番23号 TEL.086(263) 1221
津山営業所 〒708-0825 津山市志戸部712番地 TEL.0868(22) 1561